

2010年(平成22年)4月25日(日曜日)

<36>

この人に聞く

—昭和二十五年ごろかはどうなりますか。 直後に約二カ月間、作業
ら使われなくなり、ササ 「昨年」に続き、本ルーを中断しました。何かト
で覆われた増毛山道の復トの分岐点から岩尾まで ラブルがあったのでしょ
元作業に昨年から着手し のうち残った部分を開削 うか。

—「復元作業は、道路跡
区と石狩市浜益地区幌を 如く岩尾間の十二キを復 地および山道周辺の民有
結ぶ本ルート約二十二キ 元します。整備が終わっ 林の所有者から許可をい
のうち、入り口になる別 たら関係者と一緒に歩 いただいて開削するのを基
対側の本ルート四キ、本 復元した山道の活用 本にしています。中断し
ルート途中から分岐して 方法や管理方法などにつ たのは道路跡地が国の所
岩尾まで続く生活道路約 いて意見交換したいと考 有になっていたため、改
五キの一部区間を復元し えています。」 めて手続させる必要があ
ました。今年の作業計画 — 昨年は作業開始した ったからです。昭和二十



NPOで復元作業を 今年は標識や案内板設置

年ごろまでは北海道が所

有し、管理してしまし
た。戦後の混乱もあり、
道路閉鎖後は放置され、
いつの間にか所有が分か
らなくなったため、跡地
は国の所有になっていま
した。相談した結果、所
有が国から道に戻ること
になり、道の理解を得て
作業を開始することがで
きました。」

—さまざまな問題を解
決しながら復元作業を取
り組んでいます。復元
した山道の利用や管理は
どうする考えですか。
「復元した山道は現
在、立ち入り禁止にして
います。本ルートには造
林作業の道路が何本も交
差していて、ガイドの案
内がなければ迷子になり
かねない状態です。今年
は標識や案内板などを設
置し、将来の一般開放に
備える準備をしたいと考
えています。」

—増毛山道の会の運営
は会費で行われていると
聞いています。整備を進
めるには費用がかかるの
ではありませんか。
「費用を工面するた
め、特定非営利活動法人
(NPO法人)の申請を
三月に行い、現在は審査
中です。許可が下りれ
ば、留萌市や増毛町内、
さらに札幌市、石狩市な
どに住んでいる増毛山道
に関心のある人々に呼び
かけて正会員や準会員に
なってもらい、会費を運
用して整備などを進める
計画です。」

—今年復元したルー
トの整備や管理方法の検
討などに時間が割かれそ
うです。本ルートの踏査
はどうでしょう。
「踏査は続けます。昨
年は標高六百メートルで終わり
ました。今年は浜益御殿
などで山道跡の確認を進
めます。」

増毛山道の会理事兼
事務局長

小杉 忠利さん
ただとし
こすぎ

(留萌市港町三丁目、
小杉測量設計株式会社社
長、六十九歳)